アムトランス

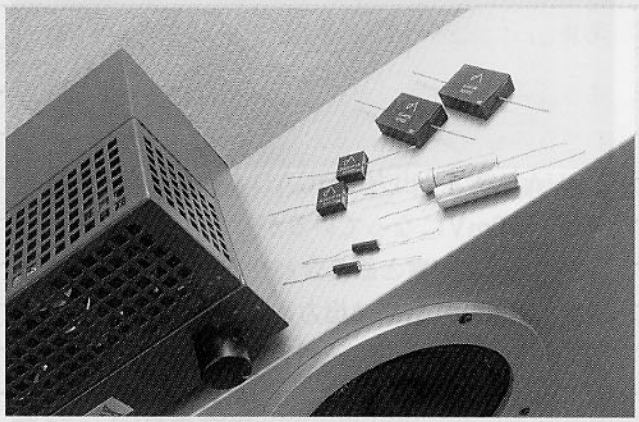
AMCA
【オイルコンデンサー】

0.1 μF　¥4,780
0.22 μF　¥4,780

スペック

MC-DA
【マイカコンデンサー】

0.01 μF　¥2,800
0.022 μF　¥4,400
0.049 μF　¥7,900
0.1 μF　¥14,800

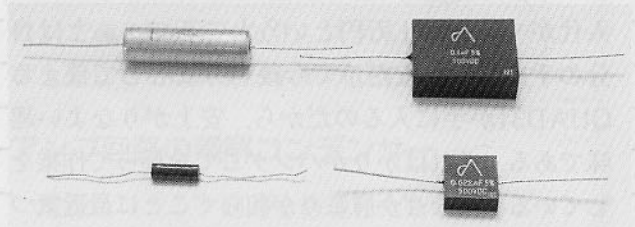


この度，音質に大変こだわった高価な高級コンデンサーが2種類発売されました．アムトランスの銅箔オイルコンデンサーAMCAとスペックのマイカコンデンサーMC-DAです．それらを同じ条件で試聴できたので，その音質傾向をレポートします．

試聴方法

サウンドベース555の真空管アンプキットK-6V6を使って試聴しました．このアンプは，初段に6SL7（6N9P）を使った6V6GT（6P6P）のシングルアンプで，CR結合と自己バイアスによるオーソドックスなビーム管接続の回路になっています．また，スピーカーには，同じくサウンドベース555が復刻した755Aを使った密閉型スピーカーを使用しました．これは，K-6V6専用に音質を微調整したもので，詳しくは昨年の本誌6月号の『小型スピーカーの設計と製作　第50回』をご覧ください．

比較試聴は，両機種に共通している0.1 μFを段間カップリングコンデンサーに使って行いました．ただし，K-6V6のCR結合は0.47 μFと150kΩなので，時定数が大きく変わらないように抵抗を470kΩに交換しました（※グリッド回路の抵抗交換は，その真空管の上限値を調べてから行ってください）．また，MC-DAマイカコンデンサーについては0.022 μFと小容量のものがあるので，それを出力管のカソード抵抗バイパスコンデンサーや，電源のデカップリングコンデンサーに並列に接続した場合の音質変化も聴きました．デカップリングコンデンサーは，チョークコイル後段の出力管のB電源用電解コンデンサーに並列接続しました．



左下が音質比較用に使用したJantzen Audioの金属蒸着型フィルムコンデンサー（0.1 μF/400VDC）．同じ容量の2機種（上側）とかなり大きさが違う．右下は0.022 μFのマイカコンデンサー

カップリングコンデンサーでの試聴

カップリングコンデンサーのリファレンス用として，Jantzen AudioのCross Capを使いました．これは金属蒸着型フィルムコンデンサーで，スピーカーネットワークパーツとして高品位なものです．0.1 μFは200円と非常に安価ですが，癖のない非常にバランスの良い音質のコンデンサーです．

リファレンスに対してAMCAオイルコンデンサーを使うと音の密度感がぐっと濃くなりました．ボーカルは滑らかで艶やかになり，温かで多彩な表現力のある歌が聴こえてきました．バイオリン曲ではポルタメントの美しい表現が際立ち，リファレンスで少し控えめに聴こえていたピアノもより明瞭になり，バランスが良く聴こえました．合奏曲では，楽器群ごとにまとまった響きが美しく溶け合わさり，最高のホールで聴くような感動がありました．

リファレンスに対してMC-DAマイカコンデンサーを使うと，音の解像度や高音域の鮮度が増したように聴こえます．ボーカルは滑らかで優しく，天使の歌声のように透明感があり清らかです．バイオリン曲では1音1音のリアリティが上がり，表現がより豊かに感じられました．合奏曲は，リファレンスよりもベールが1枚とれ，チェンバロの刻むリズムが鮮明になり音楽がよりダイナミックに聴こえます．

マイカコンデンサーには0.022 μFがあるので，これをリファレンスコンデンサーに並列に接続して試聴してみました．この場合には，マイカコンデンサーを単独で使った場合に近い（70 ～ 80%）音質になるようです．

0.022 μFのMC-DAマイカコンデンサーを電解コンデンサーに追加した場合

カソードのパスコンに使われている電解コンデンサーに並列接続した場合は，低音域の力強さが増し，音の情報量が増えたように聴こえました．音色がゴージャスになっ